

ジオスペース館だより

★ 今月の星もよう ★

2月中 旬夜8時頃の星空を見上げると南の空には冬の星座たちが勢ぞろいし、天頂付近の「ぎょしゃ座」から、時計回りに「おうし座」「オリオン座」「おおいぬ座」「こいぬ座」「ふたご座」が輪になって並んでいます。それらの星座の1等星、カペラ（ぎょしゃ）、アルデバラン（おうし）、リゲル（オリオン）、シリウス（おおいぬ）、プロキオン（こいぬ）、ポルクス（ふたご）の6つの星を結んだ六角形は《冬のダイヤモンド》と呼ばれ、ベテルギウス、シリウス、プロキオンを結んだ《冬の大三角》とともに、冬の星座を探す目印です。

また、夕方の西の低い空には金星と木星が見え、天頂近くには火星が見えます。そして、南の空でひとときわ目立つのが、くびれた長方形の中央に三つ星が並ぶ「オリオン座」です。明るい星を頼りに冬の星座をたどってみましょう。

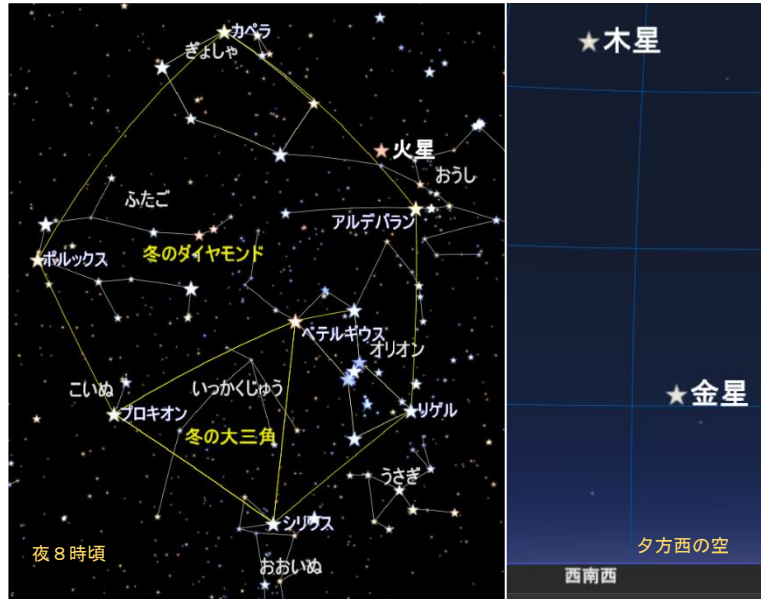
★ めらぼし(布良星) 【星の和名のお話】

「布良星」は「りゅうこつ座」の1等星カノーブスの和名です。漁師の間では、冬の寒い時期にこの星が見えると、海が荒れると伝えられ、主に海沿いの地方で、「めらぼし」と呼ばれていました。房総半島の南端には布良という漁港がありますが、この地名・布良との関係は、はっきりわかっていません。カノーブスは、南の地平線近くの低い空に見え、高く昇ることなくすぐに沈んでしまうことから、ちょっと出てすぐに引込む「横着星」、などとも呼ばれていました。また、この星を見ると寿命が延びるといふ言い伝えがあることから、中国では「老人星」や「南極老人星」と呼ばれました。

★ オリオン大星雲を見つけよう!

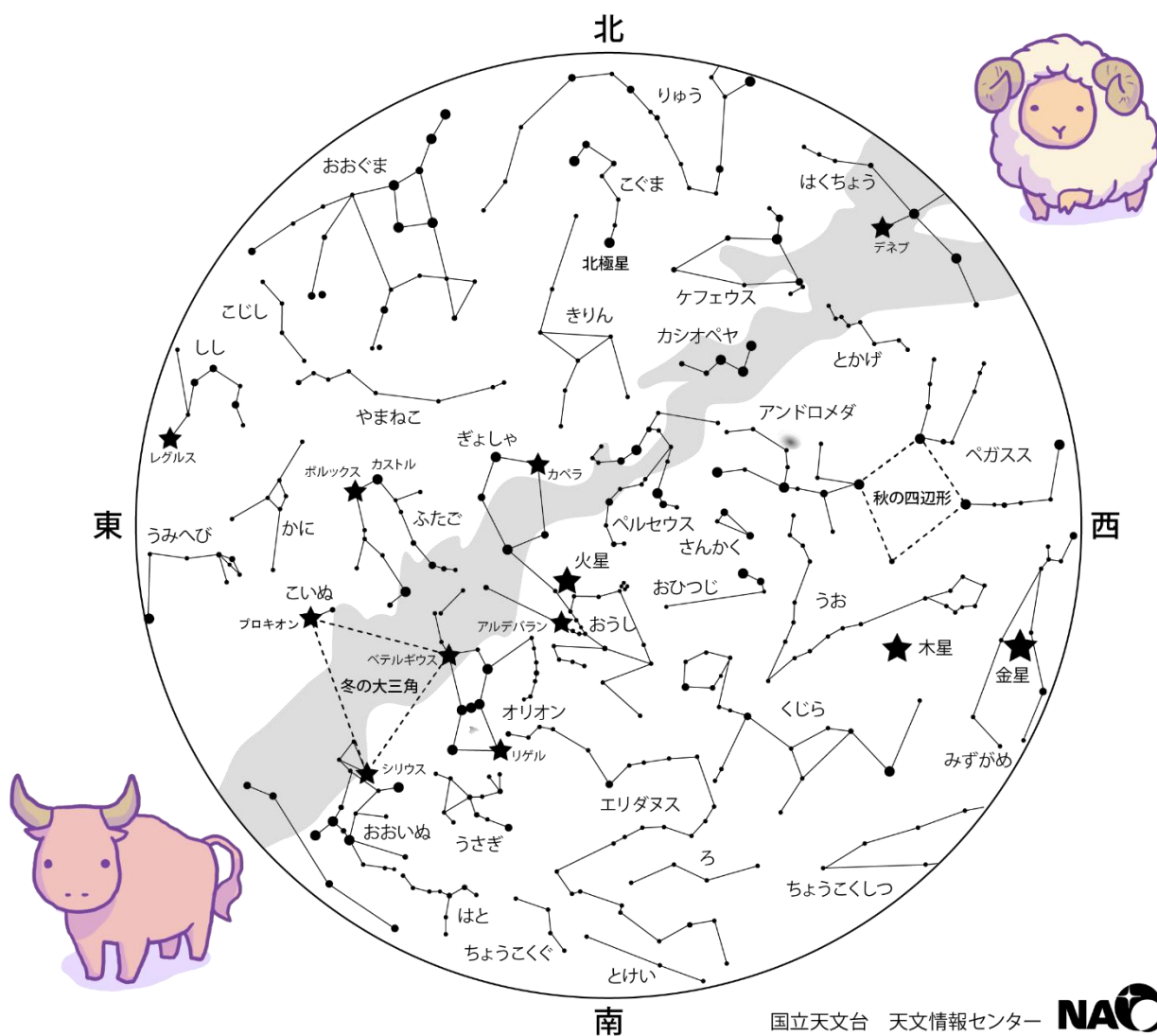
日の入り後の空がすっかり暗くなった頃、南の空にオリオン座が見えています。明かりが少ない場所で観察すると、オリオンの三つ星の下に縦に3つ並んだ暗い星「小三つ星」が見えます。この小三つ星の真ん中の星、ぼんやりと見えるのは、実はオリオン大星雲M42で、星ではありません。巨大なガスの集まりで、星が誕生している場所として知られています。2月は空が完全に暗くなる頃、オリオン大星雲が南の空の高い位置に見えるため、観察しやすい時期です。望遠鏡や双眼鏡での観察がオススメです。是非、チャレンジしてみてください。

図はステラナビゲーター11を用いて作成



★ プラネタリウムは、工事のため1月～3月は休館しています ★

2月上旬午後8時30分頃の星空



★ 2月上旬の主な天文現象

2日(木)	スリーデーエフすいせい ZTF 彗星が地球に最接近	11日(土)	ZTF 彗星が火星と接近
4日(土)	りっしゅん 立春	14日(火)	かげん 下弦、ZTF 彗星がアル デバラン(おうし座)と接近
6日(月)	まんげつ 満月		

★ 国際宇宙ステーション(豊川での主なデータ 2/1~15) ※下記時刻は、予想値です

◇	2月	3日(金)	[見やすさ ◎]	18:49	北西	~	18:53	南南東
◇	2月	4日(土)	[見やすさ ◎]	18:00	北西	~	18:07	東南東
◇	2月	5日(日)	[見やすさ ○]	18:48	西北西	~	18:54	南
◇	2月	6日(月)	[見やすさ ◎]	17:59	西北西	~	18:06	南南東

豆知識：国際宇宙ステーション (ISS) は、明るい星が動いているように見えます。
飛行機のような赤緑ランプの点滅はありません。